

地域連携 学生フォーラム

in Osaka 2025

報告集



ふらっと寄ってみ、
まちトーク!

学生の“地域愛”シェアしませんか？

目 次

はじめに	1
次第	2
各団体の発表概要	
学生発表① 大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ 廃材アートによるアップサイクルで持続可能な地域社会づくり	3
学生発表② 大阪国際大学 すだちくんフレンズ (大阪国際大学地域協働センター主催「ミライに繋がる地域との協働・共創」 ーあなたのつながる力が、まちの未来を創るーの採択企画) 徳島県の魅力を大阪府守口市へ	6
学生発表③ 大阪電気通信大学 ニホンミツバチプロジェクト ニホンミツバチの養蜂による地域の町おこし	12
学生発表④ 摂南大学 開学50周年記念事業 「温室育ちな摂南バニラコーラプロジェクト」 大学オリジナルクラフトコーラの開発	15
フォーラム当日の様子	17
参加者アンケート集計結果	20
学生運営メンバーの活動実績	24
学生運営メンバーの活躍	26
学生運営メンバー 事後アンケート集計結果	27
広報用チラシ（2種）	30

はじめに



特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪
地域連携部会長 塩田 邦成
(大阪電気通信大学 学長)

地域とつながり、学びを社会へ生かす。

地域連携 学生フォーラム in Osaka は、学生の挑戦と成長を分かち合う場です。

社会の構造や価値観が大きく変化するいま、地域で学ぶことは、単なる「経験」ではなく、未来を描くための「創造的な学び」となっています。地域の課題に向き合うことは、学生自身が社会の一員として、自らの役割を考え、行動するきっかけにもなります。

「ふらっと寄ってみ、まちトーク！学生の“地域愛”シェアしませんか？」をテーマに開催された「地域連携 学生フォーラム in Osaka 2025」では、地域課題を自分ごととして捉え、実践を重ねてきた学生たちが集い、それぞれの経験と想いを共有しました。異なる分野の学びや価値観が交わることで、対話が生まれ、互いに刺激を受けながら、新たな発見や気づきが育まれました。

また、企画から運営までを担った運営学生たちは、他者と協働する難しさを感じながらも、意見を交わし、考えを深め、形にしていきました。その過程には、試行錯誤を重ねつつ、多様な考え方をつなぎ、一つの場を創り上げようとする次世代の頼もしさが感じられました。

地域連携の本質は、地域を「学びの舞台」として捉えるだけでなく、人々と共に新たな価値を創り出すことにあります。学生たちの真摯な挑戦は、その原点を改めて私たちに示してくれました。この出会いと学びの連鎖が、地域と若者をさらに深く結びつけ、互いに学び合いながら新しい社会を共に創り上げていくことを心から願っています。

最後に本フォーラムにご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

2025（令和7）年12月

地域連携 学生フォーラム in Osaka 2025

次 第

◆日 時：2025(令和7)年10月12日(日) 13:00～16:45

◆会 場：グランフロント大阪 北館タワーC 8階

ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC Room C01 + C02

◆テーマ：ふらっと寄ってみ、まちトーク！学生の“地域愛”シェアしませんか？

◆スケジュール：

時 間	内 容
13:00～13:15	開会挨拶・趣旨説明・部会長挨拶・委員・運営メンバー紹介
13:15～13:30	アイスブレイク
13:30～13:45	準備・休憩
13:45～14:15	ポスター発表（前半） ①大阪経済大学 ②大阪国際大学
14:15～14:20	準備・休憩
14:20～14:50	ポスター発表（後半） ③大阪電気通信大学 ④摂南大学
14:50～15:05	・委員からの講評 ・学生交流企画の案内（学生運営メンバーより）
15:05～15:15	準備・休憩
15:15～16:30	学生交流企画（学生運営メンバーによる進行） ワークショップ「100年後の大阪～長寿命化した大阪の街～」 ・内容説明 ・ディスカッション ・全体発表
16:30～16:45	閉会挨拶・写真撮影

◆参加者数：

発表学生 13名、大学教職員（担当教員、事務担当者等） 5名、

その他関係者（連携先関係者等） 1名、一般観覧者 8名、

大学コンソーシアム大阪 地域連携部会関係者 4名、同コンソーシアム 事務局 3名

学生運営メンバー 11名

計45名

学生発表①

活動テーマ	廃材アートによるアップサイクルで持続可能な地域社会づくり
活動場所	大阪市東淀川区
連携先	大阪市東淀川区役所、東淀川区の企業（安積漉紙株式会社、飯田織工株式会社、株式会社山本博工務店、マスダエーセイ株式会社）
活動主体	大阪経済大学 経営学部 古賀 敬作ゼミ

1. 活動概要

カーボンニュートラルは、経済活動や日々の生活で排出される温室効果ガスを削減し、地球全体の気温上昇を抑制するために不可欠な取組みです。2020年10月、政府は「2050年温室効果ガス実質ゼロ」と「2030年温室効果ガス46%削減、さらに50%の高みを目指す」と宣言しています。将来の世代が安心して暮らせる持続可能な社会をつくるためのこうした取組みは、地域レベルではどうあるべきなのでしょうか。大阪市のごみ排出量は令和5年のデータによると93万トンものゴミが集められ、資源化や分別収集などのリサイクルを経て74.6万トンが焼却、12.8万トンが埋め立て処分となっています。また、焼却量の推移をみてみると、ピークのころから60%も削減されています。しかし、ごみのリサイクル率は全国でも非常に低い現状にあります（大阪府全国44位、PETボトルリサイクル推進協会統計データ）。わたしたちは、「リサイクルを超えた創造性・アート性」を有するアップサイクルに着目しました。とくに地域のものづくり文化や歴史を象徴する地元企業の廃材に着目したアップサイクル活動が、持続可能な地域社会づくりにつながると考え活動をおこなっています。

2. 年間計画

- 2025年3月： 東淀川区役所主催「東淀川みらいEXPO～カケルヒガショドガワ2～」で企業さまと意見交換
- 2025年4月： 企業アンケート調査準備
- 2025年5～6月： 東淀川区の企業（安積漉紙株式会社、飯田織工株式会社、株式会社山本博工務店、マスダエーセイ株式会社、）へのインタビュー実地調査
- 2025年8月： かみしんプラザ（東淀川区）廃材アートサマーベント開催
- 2025年11月： 大阪経済大学「だいけいだいキッズスマイルフェスタ」参加予定
- 2025年12月： かみしんプラザ（東淀川区）廃材アートウインターイベント開催予定

3. 活動成果

- 東淀川区企業さまとのジョイント廃材アートサマーベント開催
- 第39回自治体学長野大会ポスターセッション発表
(於：長野市若里市民文化ホール) 2025年8月23日

4. 地域からの評価

東淀川区役所地域課の方からの評価

「区内の企業さんと、様々コラボされてアップサイクルの作品（木材や布の端切れを使った雑貨、ペットボトルのふたを使用したアートを見させていただきました。）やワークショップをされていたとの事を聞きました。今回も社会貢献・地域貢献に繋がるとしても素晴らしいイベントでした。個人的には、商業施設に買い物に来た住民（親子）が持続可能な社会に向けての活動に触れられる、楽しみながら学べるというのが特に意義深いと思います。環境問題というテーマをすごくポップに地域の方に伝える素晴らしい活動だと思っています。」

5. 参考 WEB サイト

(安積濾紙株式会社 HP)

廃材アップサイクルアートイベントに参加します - 安積濾紙株式会社 - AZUMI FILTER PAPER CO.,LTD.

<https://www.azumi-filter.co.jp/azuminews/> (2025.7.25付けニュース)

(マスダエーセイ株式会社 HP)

大阪経済大学の古賀ゼミの学生さんが、取材に来てくださいました

<https://www.masuda-esei.co.jp/> (新着情報とお知らせ欄)

6. 活動メンバー

経営学部 3年

赤松拓海、松井結衣、宮本友翔、小野瑞貴、中井陽向、井ノ口真彩、久保貴寛、島豆麻衣、宮廻佐和、武藤菜々子、山岡慧太、片芝陸、永浜颯太、多田蒼生、吉原葵、青柳胡太郎、穠山実由、岩崎依純、奥田紗千、草野佳紀

7. 担当教員

経営学部 教授 古賀敬作

8. 本活動に関する連絡先

大学名	大阪経済大学	
所属先・職名	経営学部・教授	
氏名	古賀 敬作	
連絡先	電話	090-7722-9569
	メール	k_koga@osaka-ue.ac.jp

9. 活動の様子



学生発表②

活動テーマ	徳島県の魅力を大阪府守口市へ
活動場所	大阪府守口市（学内、学外）
連携先	徳島県 経済産業部 関西本部、株式会社京阪百貨店食品統括部、くらしサポートセンター守口、イタリアンカフェ Caffé Giardino（ジャルディーノ）
活動主体	すだちくんフレンズ (大阪国際大学地域協働センター主催「ミライに繋がる地域との協働・共創」 —あなたのつながる力が、まちの未来を創る—の採択企画)

1. 活動概要

大阪国際大学地域協働センターが主催する募集企画2024年度「ミライに繋がる地域との協働・共創」—あなたのつながる力が、まちの未来を創る—に、「すだちくんフレンズ」(代表：川端亜衣)が応募して採択され、同センターからの応援金（10万円）を元に活動してきた。この募集企画は、学生が主体的に社会の課題やテーマに挑戦し、地域の賑わい創出や地域の魅力を発掘・発信するものである。

活動趣旨は、徳島県経済産業部関西本部や守口市内の京阪百貨店や団体と連携して、徳島県の特産物の物販とコト消費（体験）を学内外で開催して、徳島県の魅力を伝えることである。具体的には、徳島県の郷土料理「そば米雑炊」を中心徳島県の美味しい食を知ってもらい、また伝統文化である藍染めや阿波和紙を使った作品制作を学内外の皆さんに体験してもらい徳島の伝統文化の魅力を感じてもらうことである。

活動実績 学内：6回、学外：イベント3回、寄贈：1箇所、発表：1回

2. 年間計画

2024年度

- 6月 地域協働センター募集企画に応募し、地域協働センター会議で審査の結果採択
10・11月 学内で物産展、写真展、徳島の特産物でランチプレート提供 計6回開催
関西本部の本部長の視察と意見交換・徳島新聞デジタル版に掲載
2月 学外「阿波ふうどフェア」出展（連携：徳島県経済産業部関西本部、京阪百貨店）
3月 「徳島ゆかりの交流会in関西」で徳島県の後藤田知事に直接ご報告及び登壇発表

2025年度

- 5月 「くらしサポートセンター守口」へ徳島の郷土料理そば米雑炊
(フリーズドライ200食分) 寄贈
6月 京阪百貨店SDGs食育フェスタで出展（連携：徳島県経済産業部関西本部、京阪百貨店）
7月 京阪百貨店「阿波和紙で七夕短冊づくり」出展・徳島新聞デジタル版に掲載
(連携：徳島県経済産業部関西本部、京阪百貨店)
8月 関西本部訪問、本部長へ活動報告のお礼、ご報告、意見交換を行う
10月以降 徳島県と京阪百貨店と相談の上、開催予定

3. 活動成果

「自発性×仲間の巻き込み×社会貢献」で徳島県のミッションの1つである「魅力度UP」に貢献

◆産官学連携

すだちくんフレンズの川端代表が、徳島県経済産業部関西本部や京阪百貨店食品統括部に訪問し、共通目標に向けた連携を取らせていただいた。

◆徳島県の郷土料理の普及

郷土料理のそば米雑炊や鳴門金時、徳島蓮根などの特産物を学内カフェでランチプレートとして提供して学生・教職員に魅力を広めた。さらに、阿波ふうどフェアでの試食会、くらしサポートセンター守口にそば米雑炊フリーズドライ200食分を寄贈した。

◆徳島県の伝統文化の普及

「阿波藍」で自ら染めた藍染ハンカチを学内物産展で提供した。また、「阿波和紙」を使ったちぎり絵体験、缶バッヂづくり、阿波和紙を使った七夕短冊づくりイベントを開催して、阿波和紙の新たな魅力を創り、多く方々に体験していただいた。

◆徳島県知事へご報告

「徳島ゆかりの交流会 in 関西」で後藤田知事にご報告した。

4. 地域からの評価

徳島県 経済産業部 関西本部 本部長 北川様、副本部長 池内様

2024年度より「すだちくんフレンズ」として、守口市の京阪百貨店でのイベントや大学内での物産展などを通じて、食や伝統文化といった徳島県の魅力を積極的に発信していただいていることに心から感謝しております。

また、令和7年3月に開催しました「徳島ゆかりの交流会 in 関西」では、県人会の皆様をはじめとした多数の方々に日頃の活動を紹介いただいたことで、参加者の意識にも前向きな変化が見られ、交流の輪がさらに拡大しました。

株式会社 京阪百貨店 営業本部 食品統括部 担当部長 雲川様

京阪百貨店で毎年2月に開催している徳島県の「阿波ふうどフェア」に参加され、イベントをおおいに盛り上げていただきました。更に5月の「SDGs食育フェスタ」にもご参加いただきました。伝統文化の継承は「SDGs」「食育」においても重要なポイントで、それを若い世代の人たちが熱心に取り組んでおられる姿に、私たち大人も学ばせてもらうことができ、更には将来への明るい希望が見えてきたような気がします。

5. 参考 WEB サイト

京阪百貨店 SDGs 食育フェスタに参画—栄養学科、すだちくんフレンズ、チアダンス部— | 大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部

<https://www.oiu.ac.jp/2025/06/24/18597/>

すだちくんフレンズの地域貢献—くらしサポートセンター守口へ徳島「郷土料理」寄贈— | 大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部

<https://www.oiu.ac.jp/2025/06/28/19290/>

産官学 京阪百貨店×徳島県×本学すだちくんフレンズ「阿波和紙で七夕短冊づくり」 | 大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部

<https://www.oiu.ac.jp/2025/07/07/19674/>

6. 活動メンバー

2024年度

人間科学部 川端、秋宗、辰巳

国際教養学部 野原、石倉

短期大学部 屋良

2025年度

人間科学部 川端、若原

国際教養学部 屋良、野原

7. 担当教員

2024年度 人間科学部 心理コミュニケーション学科 青野明子 教授（アドバイザーとして担当）

2025年度 地域協働センターの職員が担当

8. 本活動に関する連絡先

大学名	大阪国際大学	
所属先・職名	地域協働センター・職員	
氏名	池田寛之	
連絡先	電話	06-6902-0617
	メール	hiro@oiu.jp

9. 活動の様子



「徳島ゆかりの交流会 in 関西」で
後藤田徳島県知事へご報告

2025年度
徳島県 経済産業部 関西本部
本部長 北川様
京阪百貨店食品統括部の皆様と共に

京阪百貨店「阿波和紙で七夕短冊づくり」



2024年度
徳島県 経済産業部 関西本部
本部長 阿部様と共に

学内での物産展



「阿波ふうどフェア」で
出展（連携：徳島県経
済産業部関西本部、京
阪百貨店）

産官学連携

大阪国際大学すだちくんフレンズ×京阪百貨店×徳島県「阿波和紙で七夕短冊づくり」

大阪国際大学（大阪府守口市 学長 宮本郁夫）地域協働センターでは、学生が主体的に社会の課題やテーマに挑戦し、地域の賑わい創出や地域の魅力を発掘・発信する活動を応援しています。

その活動の一つである「すだちくんフレンズ」が、京阪百貨店と徳島県経済産業部関西本部と連携して7月6日に「七夕イベント」を開催しました。当日は徳島県経済産業部関西本部の本部長北川様にお越しいただき、学生に激励のお言葉をいただきました。

そして、11日に短冊1,918枚を京都府八幡市の石清水八幡宮へ奉納し、願いが叶うよう心願成就の祈祷をしていただきました。



企画名：阿波和紙を使って短冊や缶バッジを作る七夕イベント

開催日：2025年7月6日（日）

場 所：京阪百貨店守口店 6階

内 容：1300年の伝統「阿波和紙」に新たな魅力を！

自然由来の豊かな質感と色とりどりの阿波和紙を台紙にちぎって貼り、その上にオリジナルの夢、願い事を短冊に書いたり、缶バッヂにして楽しむ体験

阿波和紙：1,300年の歴史があり徳島県の吉野川市で作られています

奉 納：11日（金）に短冊1,918枚を京都府八幡市の石清水八幡宮へ奉納し、心願成就の祈祷をしていただく



学生発表③

活動テーマ	ニホンミツバチの養蜂による地域の町おこし
活動場所	大阪電気通信大学、兵庫県佐用町、ハニコウム園芸(大阪府四條畷市)
連携先	バンブーマウス(佐用町の町おこし団体)、ハニコウム園芸
活動主体	大阪電気通信大学 ニホンミツバチプロジェクト

1. 活動概要

ニホンミツバチプロジェクトは、大阪電気通信大学基礎理工学科環境科学専攻・齊藤研究室(齊藤安貴子教授)の学生メンバーを中心に、ベリーベリープロジェクトから派生して生まれた学生プロジェクトである。環境科学科・情報工学科・情報学科・建築学科など、多様な分野の学生が参加している点が大きな特徴となっている。

兵庫県で最も過疎化が進んでいる佐用町を舞台に、ニホンミツバチの養蜂を活用した町おこしを目指し、オリジナル巣箱の設計・制作、連携先への巣箱の設置・管理といった活動を行っている。さらに、「テクノアイデアコンテスト」などの各種コンテストにも積極的に挑戦し、地域活性化と学びの実践を両立させている。

2. 年間計画

今年度は、養蜂家の方から譲り受けた3つの巣箱の管理、採蜜が主な活動である。前期は、佐用町に巣箱を足し箱。夏期に、巣箱の管理としてオオスズメバチの被害を避けるため巣箱を網で覆うほか、はしごをかけることで道中を安全に移動できるようにし、そして採蜜。後期に、採蜜した蜂蜜を京都文教大学と協力して商品開発を行うほか、齊藤研究室の研究テーマとして役立てる。

3. 活動成果

これまで5つの巣箱の設計製作を行い、そのうち2つはハニコウム園芸に設置し、佐用町には、バンブーマウスが設置している巣箱のうち3つを譲り受け、増築という形で3箱設置した。テクノアイデアコンテスト(テクノ愛2023)へ地域プロジェクト活動の一環として参加し、奨励賞を受賞した。また、2025年6月、京都文教大学総合社会学科食マネジメントコースとの連携を図るため発表を行った。

4. 地域からの評価

佐用町昆虫館スタッフの末宗安之さんは、ニホンミツバチの生態について講義した際に「はちみつがどのように研究につながっていくのか、とてもワクワクする」と感想を述べた。さらに、今後はちみつを使った商品を共同開発する予定の京都文教大学の教員や学生からは、「蜂蜜を活用して町おこしに役立つ魅力的な商品を作りたい」と、商品開発への大きな期待が寄せられた。

5. 参考 WEB サイト

本学の学生3チームがテクノアイデアコンテスト「テクノ愛2023」最終審査で奨励賞を受賞しました
<https://www.osakac.ac.jp/news/2023/3065>

6. 活動メンバー

工学部 4年 植村陸叶（建築学科）、植村海叶（環境科学科）、大牟禮尚也（環境科学科）
工学部 3年 前田和希（環境科学科）、藤原凜大郎（環境科学科）
情報通信工学部 3年 横井羽暁（情報工学科）、三木颯真（通信工学科）
工学部 2年 今井優真（電気電子工学科）
工学部 1年 福本悠悟（基礎理工学科）、楮畠陸斗（基礎理工学科）、大草彩乃（基礎理工学科）

7. 担当教員

工学部 教授 齊藤安貴子／教育開発推進センター 特任講師 齊藤幸一

8. 本活動に関する連絡先

大学名	大阪電気通信大学	
所属先・職名	工学部 環境科学科	
氏 名	藤原 凜大郎	
連絡先	電話	080-5786-2313
	メール	eu23a095@oecu.jp

9. 活動の様子



学生発表④

活動テーマ	大学オリジナルクラフトコーラの開発
活動場所	大阪府枚方市
連携先	尾鷲保健所、伊勢くすり本舗、端壯薬品工業株式会社
活動主体	摂南大学開学50周年記念事業「温室育ちな摂南バニラコーラプロジェクト」

1. 活動概要

地域の薬剤師と共同して、大学オリジナルのクラフトコーラを開発する学生主体のプロジェクト。2024年度には、クラフトコーラ第一弾として、摂南大学薬学部附属薬用植物園で収穫したバニラビーンズやレモンなどを使ったウイズコーラ / w1th COLA を開発。2025年度は、第二弾として、連携先自治体の特産品を加えたレシピを開発予定。

2. 年間計画

- 2025年8月：伊勢志摩合宿を実施し連携先を訪問
- 2025年9月：各地のクラフトコーラを飲み比べて味を分析
- 2025年10月：自分たちでスパイスを使って数種類のレシピを試作
- 2025年11月：試作したレシピを第三者に試飲してもらいフィードバックを得る
- 2025年12月：レシピを一つに絞る
- 2026年1月：製造元に試作品を依頼
- 2026年2月：試作品を試飲、レシピを微調整
- 2026年3月：摂南バニラコーラ第二弾完成

3. 活動成果

2025年8月に伊勢志摩合宿を実施し、尾鷲保健所で食品衛生や食品表示について、伊勢くすり本舗でクラフトコーラ開発について、それぞれ研修を受けた。また、おかげ横丁を散策しながら地域の特産品について調査を行った。今後、市販のクラフトコーラを飲み比べて味を分析し、自分たちのオリジナルレシピを検討する。

4. 地域からの評価

2024年度の活動では、地域の薬剤師との触れ合いはあったが、大学の収穫物を使って、学内限定で販売したため、地域への貢献は限定的であった。2025年度は、地域の魅力を大阪都市圏で広めることを意識して、伊勢志摩や尾鷲の特産品を使ったレシピを予定しているため、地域からの評価が期待できる。

5. 参考WEBサイト

https://www.setsunan.ac.jp/~p-togo/ito_vanilla.html

6. 活動メンバー

薬学部2年 茂山蘭、森下煌生、杜宇翹、山口奈菜、土岐文音

7. 担当教員

薬学部 准教授 伊藤優

8. 本活動に関する連絡先

大学名	摂南大学	
所属先・職名	薬学部・准教授	
氏名	伊藤 優	
連絡先	電話	072-866-3145
	メール	yu.ito@pharm.setsunan.ac.jp

9. 活動の様子



フォーラム当日の様子



塩田部会長 開会挨拶



学生間 アイスブレイク

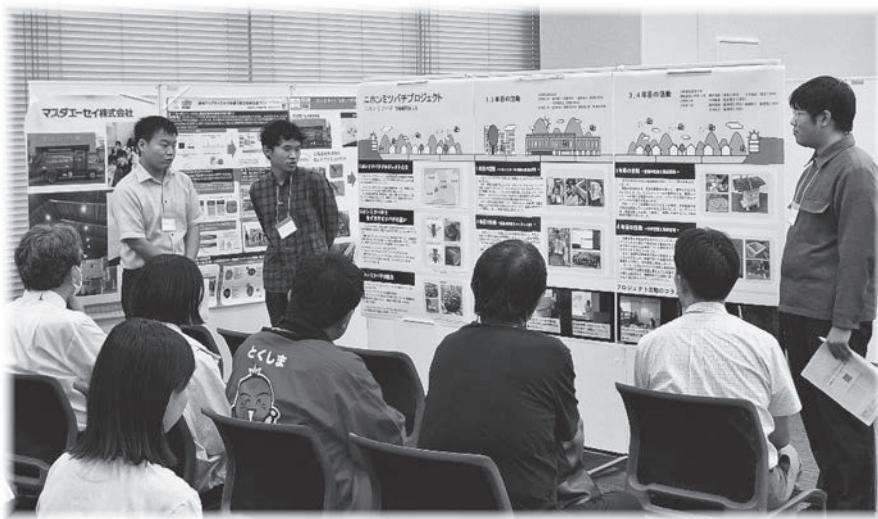


大阪経済大学 経営学部
古賀敬作ゼミ



大阪国際大学
すだちくんフレンズ

学生発表（前半）



大阪電気通信大学
ニホンミツバチプロジェクト



摂南大学 開学50周年記念事業
温室育ちな摂南バニラコーラプロジェクト

学生発表（後半）



久推進委員長



尾山副推進委員長



伊藤委員

委員からの講評

学生交流企画「100年後の大坂～長寿命化した大阪の街～」ワークショップ



グループワーク



全体発表



集合写真

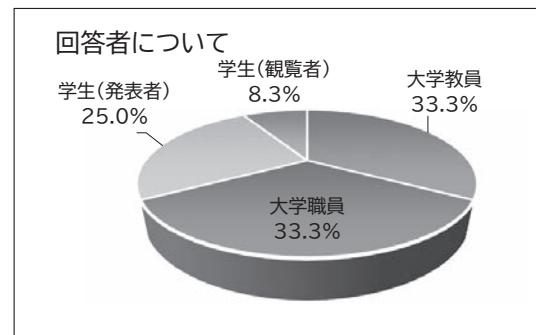
参加者アンケート集計結果

回答者数 12名／参加者数 27名^{*}（回答率：44.4%）

*大学コンソーシアム大阪関係者および学生運営メンバー計18名は除く

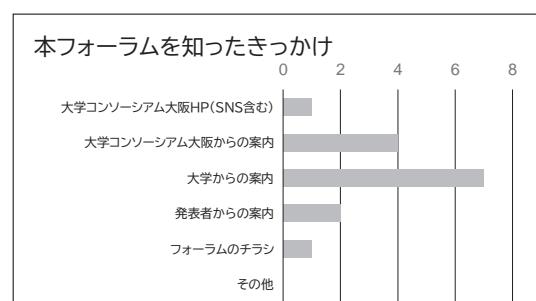
1. 回答者について

大学教員	4
大学職員	4
学生（発表者）	3
学生（観覧者）	1
自治体関係者	0
産業界（企業等）関係者	0
その他	0



2. 本フォーラムを知ったきっかけ（複数回答あり）

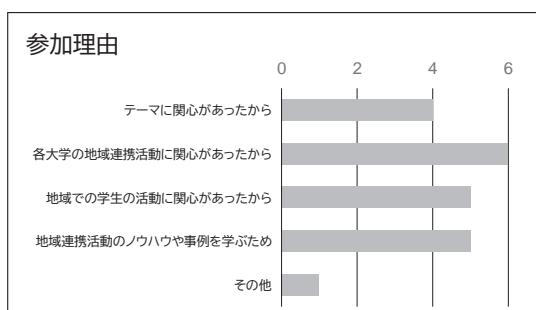
大学コンソーシアム大阪 HP (SNS 含む)	1
大学コンソーシアム大阪からの案内	4
大学からの案内	7
発表者からの案内	2
フォーラムのチラシ	1
その他	0



3. 本フォーラムへの参加理由（複数回答あり）

テーマに 관심があったから	4
各大学の地域連携活動に 관심があったから	6
地域での学生の活動に 관심があったから	5
地域連携活動のノウハウや事例を学ぶため	5
その他	1

【その他】 学生が発表者として参加するため。



4. 本フォーラムの満足度について

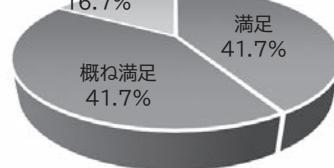
満足	5
概ね満足	5
満足できない点があった	2
不満	0

満足度 満足できない点が

あった
16.7%

満足
41.7%

概ね満足
41.7%



4-2. 上記と回答した理由

満足と回答

学生の発表レベルの高さに感心したから。

色々見れて面白かった。

いろんな方法で地域貢献している学生達に出会えたため。

学生の学生による学生のためのフォーラムだったと思います。企画、運営、発表とすべて学生さんたちの力で作り上げている点がよかったです。

概ね満足と回答

学生が生き生きとしていた。

グループワークが良かった。

さまざまな学生の取り組みが知れて、よかったです。またポスター発表という形式も、質疑応答しやすく、とてもよい取り組みだと思う。もう少し参加団体が増えたらよかったです。

参加者が少ない。

10大学程度参加してほしかったです。運営の企画立案を学生にお任せされいると思いますが、事前に事務局側がもっと運営方法についてアドバイスされても良かったのではと思います。

「満足できない点があった」と回答

ポスターを見る時間が少なすぎる。学会のように、ポスターを観る時間を作り、コアタイムとして発表者が発表するようにしたら良い。

学生同士の交流の時間やアイスブレイクはもっと短くていいと思う。

ファシリテーターが他の運営者と話し続けたり、軽い態度で進行している場面があり、進行の面で少し不満を感じました。

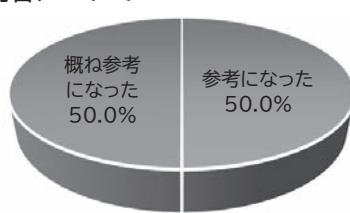
5. 発表内容について

参考になった	6
概ね参考になった	6
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0

発表内容について

概ね参考
になった
50.0%

参考になった
50.0%



5-2. 各発表についての感想や意見

地域連携の色彩が若干弱かった感があるが、何がしら地域に関わる活動をおこなっている学生はイキイキとしていました。
次の4つの視点が揃えばより良かったです。 ①学生の視点、②協力してくれた自治体・企業の視点、③地域住民の視点、④地域の変容の視点
企業や自治体との連携など、さまざまな事例が知れて大変参考になった。学生たちは卒業してしまうので、その活動をどのように継続・発展させていくのかというのが課題だと感じた。
発表内容に一貫性があり、とても参考になりました。
非常に面白かったです。
各チームの個性が出て良い発表だと思いました。
研究とか発表とかいろいろやってるんだなーって思いました。ミツバチのやつが特にすごいと思いました。
スダチもハチミツも、地域に根差したよいトライだと思いました。
学外での取り組みが学生にとって、新たな能力の発見につながると感じた。また、できれば発表のベースは離したほうが、聞き取りやすい。
他大学の地域創生の発表を拝見し、アプローチの多様さに非常に刺激を受けました。地域資源や歴史、文化を巧みに活用した取り組みが多く、自分たちの視点では気づけなかった工夫や発想の広がりを学ぶことができました。質疑応答では具体的な課題解決の方法や地域との関わり方について深く知ることができ、非常に有意義でした。他大学の発表を通して、地域課題への多角的なアプローチの重要性を実感し、自分たちの活動にも新しい視点やアイデアを取り入れていきたいと感じました。
大阪経済大学：興味深い発表でした。経済的な考察をもう少し聞きたかったです。
大阪国際大学：パワーが凄かったです。モチベーションは学生さんに由来するのを実感し、学生プロジェクトの難しさを痛感しました。
摂南大学：かなり完成された研究でとても良かったと思います。
大阪経済大学：廃材のリサイクル、アップサイクルという枠組みだけでなく、自らリサイクル・グッズの開発に取り組んでいるところがすごいと思いました。
大阪国際大学：主として1人で、徳島県のPRプロジェクトを遂行しているとのことで感銘を受けました。熱意と行動力に敬服します。
大阪電気通信大学：工学系、情報系、建築系を組み合わせた取り組みで、大変興味深く拝聴しました。佐用町との関係についてもう少し説明があるとよかったです。
摂南大学：薬学をもとに自作のバニラを使用したコーラ開発がユニークでした。是非とも試飲してみたいです。

6. フォーラム全体について意見、感想等

優劣を競うのではなく、活動地域での地元愛のオリジナリティを目指す方向性はとても素晴らしいと存じます（ナンバーワンでなく、オンリーワン）。
またフォーラムに参加させて頂きたいと思います。
もっと地域のこと話すのかと思っていたので予想とは違ったけれど楽しかったです。
他大学との交流で新しいイノベーションが生まれることに期待しています。一方で地域のテーマが薄く感じた。
学生同士の交流を主とするのか、地域連携を主とするのか、どちらかにしたほうが良いと思います。
さまざまな活動を共有し、また他大学の学生と積極的に交流できる大変有意義な時間でした。本学の学生も発表でき、大変自信がついたようでした。素晴らしい機会を提供ください、ありがとうございました。

ポスター発表が、ポスター発表の形式ではなかった。
発表大学が4大学でそれほど多くなかったので、1大学ずつのオーラルプレゼンテーションと質疑応答でもよかったです。パラレルのポスターセッションだと、1人で発表していた大阪国際大学の学生さん（徳島PRのテーマの学生さん）は、同時進行の大経の発表を聞くことができなかったと思います。
他大学の学生と交流し、多様な地域への取り組みを知ることができ、大変刺激的な経験となりました。自分たちの活動を発表する機会を通して伝え方や課題設定の重要性を再認識でき、質疑応答では私たちでは思いつかない視点や地域文化・歴史との結びつきに触れることができ、地域課題への多角的なアプローチの可能性を実感しました。この経験を今後の活動に活かし、より実効性のある地域貢献につなげていきたいと感じました。
以前に比べて、やはり活気がないように感じられます。出場チームも今回は4チームと寂しい限りです。学生主体のフォーラムである以上、学生の出場へのモチベーション・当日の緊張感などを高めるべきである（登壇・プレゼン）。学生目線に立つことが重要である。古い教員の考えは不要である。ですので、コンペ・登壇プレゼン方式に変更すべきである。その場合、質疑応答でプレゼン大学以外の大学は議論を交わせばよい。ポスター発表は学会でいうところの脇役である。ここ数年、参加させている者にとって、このような方式への変更は残念な限りです。なお、最後の様々な大学の学生がグループになって案を出す企画はよいと思います！
もっと定期的に行えたらいいなと思いました。

7. 本フォーラムの企画・運営を行った学生運営メンバーへのメッセージ

大変お疲れ様でした。準備、大変だったと思います。これからも皆さんの活躍を応援しています。
すごく企画が楽しかったです。ありがとうございました。
準備など大変だったと思います。お疲れ様でした。より良い会にするため、今後も頑張ってくださいね。
丁寧な構成でだれもが参加しやすいイベントでした。
盛り上げようと頑張っていたと思います。
長期にわたり、企画、運営準備にご尽力いただきありがとうございました。これからの学生生活、社会人生活にこの経験が活きると思います。今後のご活躍を祈念します。
チームワークの良さがとても伝わってきました。出場学生に気軽に声がけいただき、とても嬉しかったです。感謝を申し上げます。
学生たちが生き生きと発表したり、議論したりしているのを見て、大変頼もしく思いました。それも学生運営の力が大きかったと思います。学生たちが楽しめるようにたくさん工夫がされていて素晴らしいと思いました。ありがとうございました。
本フォーラムの企画・運営に尽力された学生運営メンバーの皆さん、本当にお疲れさまでした。イベントを通して、スムーズな進行や多様な発表の機会提供など、細やかな配慮が随所に感じられ、大変ありがとうございました。皆さまのおかげで、他大学の取り組みを学び、自分たちの活動を振り返る貴重な時間を持つことができました。今後も、今回のように地域への関心を広げ、実践的な学びを生み出す活動を続けていかれることを心より応援しています。本当にありがとうございました。

学生運営メンバー 活動実績

1. 活動スケジュール

回	活動日	検討内容等
第1回	5月23日	キックオフミーティング (自己紹介、役割分担、テーマ・企画のブレーンストーミング)
第2回	5月28日	ミーティング (テーマの決定、フォーラムの方向性、ロゴデザインの検討)
第3回	6月9日	会場下見、ミーティング (チラシデザイン、ロゴデザインの検討)
第4回	6月23日	ミーティング (フォーラム内容の具体化、広報方針の検討)
第5回	7月2日	ミーティング (アイスブレイク・学生交流企画の検討、フォーラムの広報方針の検討)
第6回	7月11日	ミーティング (夏季休暇中の広報方針の検討・アイスブレイク・学生交流企画の検討)
第7回	8月25日	ミーティング (Tシャツデザインの検討、観覧者募集チラシの検討)
第8回	9月17日	ミーティング (観覧者募集チラシの作成、当日プログラムの具体化、準備物の確認)
第9回	9月24日	ミーティング (当日の役割分担、進行方法の検討)
第10回	9月30日	ミーティング (当日プログラム確定)
第11回	10月8日	ミーティング (アイスブレイク、学生交流企画の最終調整)

※7月下旬～8月下旬は夏季休暇期間。

2. 学生運営メンバー (6大学11名) ※大学名五十音順

NO.	氏名	大学名	学部・学域	学科・学類	学年
1	I・H	大阪公立大学	現代システム科学域	環境社会システム学類	2年生
2	伊藤 花純	大阪公立大学	生活科学部	居住環境学科	4年生
3	塚本 すみれ	大阪公立大学	商学部	公共経営学科	3年生
4	西田和 麻央	大阪公立大学	現代システム科学域	環境社会システム学類	2年生
5	松浦 由芽	大阪公立大学	生活科学部	人間福祉学科	4年生
6	増本 梨沙	追手門学院大学	地域創造学部	地域創造学科	3年生
7	佐藤 かなめ	大阪医科大学	薬学部	薬学科	3年生
8	原口 紗弥	大阪医科大学	薬学部	薬学科	3年生
9	岩橋 慧	大阪国際大学	経営経済学部	経済学科	3年生
10	高橋 理菜	関西大学	ビジネスデータサイエンス学部	ビジネスデータサイエンス学科	1年生
11	久保 遥希	四天王寺大学	経営学部	公共経営学科	3年生

3. 活動の様子

<p>テーマ・フォーラムオリジナルロゴ</p> 	<p>テーマの検討にあたっては、メンバー一人ひとりが「気軽に立ち寄れる場所」「年齢や立場を超えて集える空間」といったキーワードを出し合い、議論を重ねました。その結果、地域とのつながりを自分たちらしく表現した「ふらっと寄ってみ、まちトーク！学生の“地域愛”シェアしませんか？」をテーマに決定しました。</p> <p>また、テーマの温かみを形にするため、ハートをモチーフにしたクローバーを包み込む、両手のイメージでデザインしたオリジナルロゴを作成しました。このロゴには、「地域の人々や想いを大切にしながら、新たなつながりを生み出していくたい」という学生たちの願いが込められています。</p>
<p>ミーティング</p> 	<p>5月下旬のキックオフミーティングを皮切りに、学生たちは主体的に意見を出し合いながら、広報戦略やプログラム内容、当日の運営体制などを検討してきました。</p> <p>「発表する人も、見る人も楽しめるフォーラムにしたい」という想いから、発表者と観覧者の距離が近く、双方向の交流が生まれやすいポスター発表形式を採用。発表前には、発表者同士が緊張をほぐし合えるよう、アイスブレイクの時間を設けました。</p> <p>さらに学生交流企画では、「100年後の大阪～長寿命化した大阪の街～」をテーマとしたワークショップを企画。自由な発想で未来の地域像を語り合う中で、参加者同士のつながりが一層深まりました。</p>
<p>フォーラム当日（10月12日）</p> 	<p>いよいよ迎えた本番当日。会場には程よい緊張感と期待感が漂い、学生たちはそれぞれの役割を再確認しながら、状況に応じて柔軟に対応していました。互いに声を掛け合い、支え合う姿は、これまでの準備期間で培われたチームワークの賜物でした。</p> <p>発表や交流の場では、地域への想いをまっすぐに伝える学生たちの姿が印象的でした。フォーラム全体を通じて、学生の主体性と協働の力が光る一日となりました。</p>

学生運営メンバーの活躍



受付



場内案内

司会



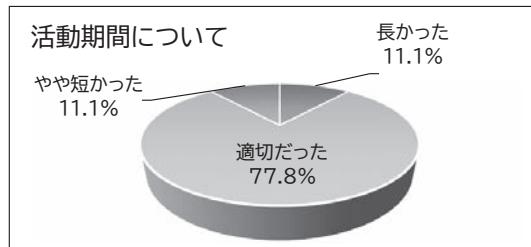
メンバー集合写真

学生運営メンバー 事後アンケート集計結果

回答者数 9名／参加学生数 11名（回答率：81.8%）

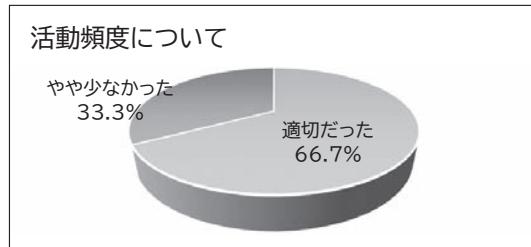
1. 活動期間について

長かった	1
やや長かった	0
適切だった	7
やや短かった	1
短かった	0



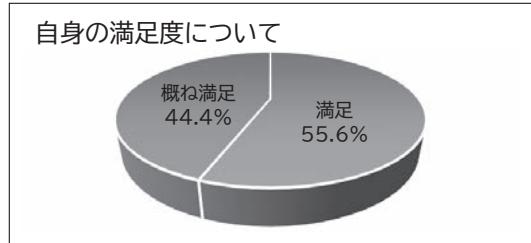
2. 活動頻度について

多かった	0
やや多かった	0
適切だった	6
やや少なかった	3
少なかった	0



3. 今回の活動を通じた自身の満足度について

満足	5
概ね満足	4
満足できない点があった	0
不満	0



3-2. 上記と回答した理由について記入してください。

満足と回答

学生メンバーの話し合いで決められるところが多くて、自分たちでイベントを作り出せた感がありました。
はじめてのイベント運営だったが、運営メンバーで支え合いながらできて、とてもよい経験になったため。
他大学の人と意見交流をしっかりできた。
これまでにない経験をさせていただき、個人的にもとても成長できたと実感できたからです。
普段の生活では関わることのない他大学の方と協力して、一つのイベントを自分たちの手で作り上げることができたので、とても自信がつきました。改善点も多くあったと思いますが、今の自分たちにできることは全部やり切れたと思います。イベントの参加者の方とも交流できて、本当に良い経験になりました。

概ね満足と回答

当日の運営は全員が役割を持って協力して活動できたから。
100点といいたいところだが、やはりいくつか反省点もあったし、そういったところを踏まえての評価だから。
参加できなかつた分で少しもったいなかつたかなと思う。
予定が合わない中でも、いるメンバーで話を進め、全体で進捗を共有することがスムーズに行えていたので良かったです。
一方で、夏季休業などで期間があくことが多かったため、話し合いのしづらさを感じるときもありました。短期間で同じ回数のミーティングか、長期間で多い回数のミーティングの方がもっと円滑に進められたと個人的には思います。

4. 今回の活動を通じて、自身を成長させることができましたか。

できた	9
できなかつた	0
どちらともいえない	0



4-2. 上記と回答した理由を記入してください。

初対面の人たち間で行われる話し合いに参加するのが楽しくなった。
初めて会う人と一つの目標に向かって何かを作り上げることを経験できたから。
大人数があまり得意な方ではなかったのですが、メンバーとして意見を出すことができたと思うからです。
グループでの活動が苦手で、ミーティングでもなかなか発言ができなかつたのですが、今回の活動を通じて自分の意見をしっかり発言できるようになりました。また、自ら積極的にチラシやスライド等の制作に携わることができました。
異なるバックグラウンドのメンバーで意見を擦り合わせるのは簡単なことではなかつたが、その経験を経て視野がとても広くなつたと思う。
人とのコミュニケーションの取り方で得るものがあった。
大人数でのプロジェクトの進め方の基礎的な部分は学べたと思うし、何しろ実際に体験できたというのは私自身にとって大きな財産になったと感じているから。
運営メンバーとして、来てくれた方に楽しんでもらえるのだろうかと考えながら進行を行えるようになったから。
本番では企画の司会を担当しましたが、もともと大勢の前で話すのが苦手でした。それでも、これまでみんなでたくさん準備をしてきたので大丈夫だと思って、ほとんど緊張せずに自分らしく進めることができました。この経験を通して、人前で話すことへの苦手意識が少しなくなり、自分が成長できましたと感じました。

5. 今後もこのようなイベントの企画・運営に携わりたいですか。

携わりたい	6
日程や都合があえば携わりたい	3
携わりたくない	0

イベントの企画・運営に携わりたいか

日程や都合があえば
携わりたい
33.3%

携わりたい
66.7%



6. この活動に参加した感想や、上記で回答した以外の意見があれば、自由に記入してください。

学生フォーラムの活動に携わることができてとても感謝しております。ありがとうございました。
長いようで短かった今回のプロジェクト。一時はどうなる事かと肝を冷やした時もありましたが、何とか本番までに仕上げることもでき、特段のトラブルもなくやり切れたと思います。ここまで上手く行けたのも、裏方でサポートしてくださった事務局の方々がいてくださいましたからです。貴重な機会の場を与えてくださいり、本当にありがとうございました。
普通に生活していたら、出会うことのなかった皆さんと活動出来て楽しかったです。事務局の方々も、サポートいただきありがとうございました。
活動期間を通して、コンソの事務所の方々にたくさん助けていただきました。ありがとうございました。また、このような企画に参加させていただきたいです。

発表学生募集チラシ

ふらっと寄ってみ、まちトーク！
学生の”地域愛”シェアしませんか？



地域連携 学生フォーラム in Osaka 2025

発表学生大募集

日時

2025(令和7)年10月12日(日) 10:00~17:00

会場

グランフロント大阪 北館タワーC 8階
ナレッジキャピタル カンファレンスルーム タワーC
Room C01+C02

対象

大学コンソーシアム大阪の会員大学に在籍する学生
※複数大学の学生によるグループも可（主たるメンバーが会員大学の学生であること）

形式

ポスターを掲示して発表

募集締切

8/22 金

17:00まで



発表対象

- 学生が地域と連携して取り組んでいる研究活動、事業、フィールドワーク等
- 学生が主体となって地域と連携して取り組む活動

発表にあたって

- 活動のテーマやエリア、進捗は問いません
- 発表数が予定を大幅に超える場合や発表内容が開催趣旨から逸脱している場合は調整を行うことがあります

エントリーの詳細は下記のURLか右のQRコードから
アクセスしてください

https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei_forum

問い合わせ先

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局（地域連携担当）
TEL: 06-6344-9560
Mail: chiiki-renkei★conso-osaka.jp ※★を@に変えてください

【主催】特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

エントリーはこちらから！



運営学生メンバー
Instagram



CHIIKIRENKEIGAKUSEI

観覧者募集チラシ

ふらっと寄ってみ、まちトーーク！
学生の”地域愛”シェアしませんか？



地域連携学生フォーラム in Osaka 2025

観覧者募集

観覧申込はこちらから！



日時 2025年10月12日(日) 13:00～16:45（予定）

会場 グランフロント大阪 北館タワーC 8階
ナレッジキャピタル カンファレンスルーム タワーC
Room C01+C02

地域連携学生フォーラムとは

大学コンソーシアム大阪の会員大学（42大学）に在籍している学生が、地域で取り組んでいる研究やゼミなどの活動について発表し交流する、学生主体のフォーラムです。

POINT 1
学生の「地域愛」と実践的な活動に触れられる！

POINT 2
交流と学びの機会



POINT 3
地域社会への理解が深まる！

発表者所属大学 大阪経済大学、大阪国際大学、大阪電気通信大学、摂南大学

問い合わせ

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局（地域連携担当）
TEL : 06-6344-9560
Mail: chiiki-renkei★conso-osaka.jp（★を@に変えてください）

【主催】特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪



当日のスケジュール（予定）

- 13:00 開会挨拶
- 13:15 アイスブレイク
- 14:00 ポスター発表
- 15:30 学生交流企画
- 16:30 閉会挨拶



発表大学 情報まとめ

1. 大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ
廃材アートによるアップサイクルで持続可能な地域社会づくり
2. 大阪国際大学 すだちくんフレンズ
徳島県の魅力を大阪府守口市へ
3. 大阪電気通信大学 ニホンミツバチプロジェクト
ニホンミツバチの養蜂による地域の町おこし
4. 摂南大学 開学50周年記念事業
「温室育ちな摂南バニラコーラプロジェクト」
大学オリジナルクラフトコーラの開発

問い合わせ

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局（地域連携担当）
TEL : 06-6344-9560
Mail: chiiki-renkei★conso-osaka.jp（★を@に変えてください）



【主催】特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪



特定非営利活動法人
大学コンソーシアム大阪

〒530-0001

大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第 2ビル4階

TEL:06-6344-9560

MAIL:chiiki-renkei★conso-osaka.jp(事務局 地域連携担当)

★を@に変えてください。

URL:<https://www.consortium-osaka.gr.jp>